

2026(令和8)年度
札幌大学転入学・編入学試験(2月)

リベラルアーツ専攻

小論文試験

【小論文テーマ】

日本の大学教育では外国語を学ぶことが基本とされてきました。学問の発展には教育研究の国際交流が重要となります。外国語がそのために必要なツールであることは論を待ちません。しかし、近年は機械翻訳や機械通訳の技術が発達し、いずれ外国語の習得が不要になるとみる向きもあります。こうした現代において、大学教育で外国語を学ぶことにはどのような意義があると考えられるでしょうか。具体的な事例を論拠として示しながら、自分の考えを1200字以内で論述しなさい。

【出題意図】

リベラルアーツ専攻の教育は、諸科学に親しみ、世界を視野に地域やビジネスの課題を解決するための思考力や対話力、行動力を身につけさせることを目標にしている。

その専攻教育への適性を判断するため、今回は①リベラルアーツの柱の一つである外国語を習得する意義に関する基礎的な知識、②その知識によって育まれる外国語学習に対する関心、③それらに基づき課題の内容を読み解く力、④課題に対して持てる知識を駆使して多角的に推論する思考力、⑤自らの考えを論理的に表現する力を総合的に評価する論述式の出題とする。

【評価観点】

小論文は以下の観点をふまえ、総合的に評価する。

イ) 課題内容を適切に読み取れているか(出題意図①②③)

ロ) 考察が多角的かつ論理的になされているか(出題意図④)

ハ) 文章は適切な表現により構成され、所定の分量に収まっているか(出題意図⑤)

*配点は原則イロハの部分点が30点ずつ、全体的なまとまりを評価する総合点が10点とするが、イロハについて出来具合に偏りがある場合には、出来のよい部分の評価を割増すこともあるものとする。